

“人の大林”は社内だけでなく 社外にも広がっている

創業から大林組に受け継がれてきた「誠実なものづくりの姿勢」や「技術力」、そして「人間力」。

脈々と続く伝統を支えるのは、職員たちに他ならない。

若手職員たちが、“大林組らしさ”の実像について語る。

入社前と入社後の

大林組のイメージは変わりましたか？



高橋：入社前はゼネコンという業界に堅いイメージをもっていました。また、仕事の量が多く大変という印象もありました。

堀口：私もゼネコンは終電があたりまで、土日も仕事があると思っていました。でも実際は、働き方改革が進んでいて、できるだけ個人の負担を減らしていこうという動きがあって、業界全体で、職場環境を変えていこうという意思を感じますね。土曜出勤もありますが、その代わりに平日に休みをとるように上司から指導があります。



城島：平日でも予定があるときは、早めに帰れるように調整してくれるなどの配慮もあります。また、入社前から大林組は風通しのいい会社だと聞

いていましたが、その通りだと実感しています。分からないことを上司や先輩に質問しやすい環境がありますし、分かるまで丁寧に教えてくれます。

高橋：雑談に交えて自然と仕事の相談ができるような雰囲気をつくってくれたりしますよね。その雑談も相手に合わせて内容の幅が広くて、スポーツの話だったり、スイーツの話だったり。

城島：席が離れている上司が若手の席まで来て、一人ひとりに声をかけてくれるので、話しやすい環境があります。

木村：上司の方は本当にコミュニケーションをとるのが上手ですね。私の現場では、土曜出勤の所長が職員にお昼ごはんを作ってくれるときがありますよ。

高橋：現場の職人さんからも、他社に比べて職員との距離が近く感じると聞きます。風通しの良い社風というのは、社内だけではなく一緒に働く協力会社の方や職人さんたちに対しても同じだと思います。

高橋：現場にいる職人さんから問い合わせがあれば、電話だけで済ませずに、直接足を運ぶように心がけています。少しの労を惜しまないことで職人さんとの関係を築いていけると感じます。

城島：まさに「人の大林」ですね。そうしたちょっとした声かけや気遣いが、信頼関係を築くうえでも大切だと分かってきます。

木村：よく所長から「今頑張れば、あとになって自分の身となり成果としてあらわれてくる」と

言われます。シンプルなアドバイスですが、非常に説得力があり、励みになります。

堀口：私が入社してから驚いたことは、所長自らICTを推進されていることです。現場では従来のやり方を重んじるイメージがありましたが、新しい方法に挑戦していく姿勢を見習いたいと思います。

木村：尊敬できる人が身近にいることは、モチベーションにつながります。上司の背中を見て、自分のスキルアップにつなげていきたいと思います。

研修制度はいかがですか？

高橋：私は、入社時から1年間、現場で仕事をしながら、隔週で本社に行って受講する施工と施工図に関する研修が勉強になったと感じます。

木村：様々な新入社員研修の中で、「富士教育訓練センター」に行ったことは特に印象深かったですね。富士山の麓で行う宿泊型の短期研修があり、実際に配筋をしたり、型枠の組み立て、コンクリートの打設など、現場作業を体験しました。自ら手を動かすことで職人さんがどのように工事を進めているのかを学ぶことができました。



城島：富士教育研修は何と言っても、同期同士で助け合いながら作業するので、絆が深まるよね。

堀口：私は入社年度別の集合研修が充実していて助かりました。今度、杭工事の担当になるのですが、学生時代に学んでいなかった内容なので、そもそも“なぜ杭があるのか”さえ知らなかったです。杭はこれほど地中深くに掘るのか、こんな杭打ちの方法があるのか、と具体的なイメージを持たせてくれました。おかげで、経験値の少なさはカバーできたと思います。

高橋：私の事務所では月に1回、勉強会があり、実務から得られる学びを細かに共有してい

ます。それから、イントラ(※)で配信されるeラーニングも助かりますね。内容が簡潔で、忙しい時でも5分程度で目を通せます。

城島：キャリアに合わせて多様な学びの機会があって、人材として大切にされていることを実感できます。

今後の夢を教えてください。

城島：将来、結婚して子どもが生まれても、現場で働きたいと考えています。現場勤務と育児の両立は容易ではなく、内勤を選ぶ女性職員も少なくありません。でも、人それぞれ多様な働き方があってよいと思いますし、大林組でなら実現できると信じています。

木村：5年後10年後は、自分で職人さんを集め、広い視野をもって全工程を把握し、現場を

動かせる立場になりたいと考えています。

高橋：私は本社配属の現場を支援する部署に興味があります。あらかじめ工場で製作されたRC造の柱や梁を現場で組み立てていくプレキャスト・コンクリート工事を専門に現場支援する方をみて、考えるようになりました。現場での作業をシンプルにするためには緻密な計画が求められます。他の部署でも現場を支援しているところは数多くあるので、様々な部門で経験を積みたいと思います。

堀口：将来は、会社に利益をもたらせるような人になることが目標です。たくさんの知識を身に付け、低コストで高クオリティな工事を実現したいと思います。そしてその先は、大きなプロジェクトを自分で引っ張っていけるようにしたいと考えています。

※イントラ(イントラネット)
組織内におけるプライベート
ネットワーク

木村 直柔

横浜支店
LGみなとみらい工事事務所 職員
2019年入社

高橋 祐季

東京本店
白金一丁目再開発JV工事事務所 職員
2018年入社

城島 果歩

東京本店
五反田計画工事事務所 職員
2018年入社

堀口 泰裕

東京本店
八重洲一丁目東JV工事事務所 職員
2019年入社